

## 論点3 伝え、知り、分かり合うことの大切さ その1 市民と市民の関係

### STEP 1

#### 問題提起 エピソード「まちかどでのお話」



論点2でも議論されたように、市民参加を進めていくうえでは市民同士がコミュニケーションを図り、理解し合うことはとても重要なことです。

しかし、身近な地域の中で行われる活動を見ても、地域社会の構成員である市民の皆さんは一人ひとり多様です。まして、京都市全体、あるいは京都に関係する人々も含む広い意味での「市民社会」では、より多様な皆さんが活動しています。年代も職業も、あらゆることが異なる人たちがお互いに深く理解しあうことは困難なことだと考えられますが、それでも理解し合うための努力が必要です。

### ✿ ちょっと聞いてよ！～フォーラムに届けられた市民の声～

#### 顔の見えない地縁組織

私は大学生で下宿を借りて住んでいるんですけども、その下宿のアパートが、回覧板や町内会費の徴収などを大家さんの方で止めているので、地縁組織の関わりというものは一切ないですね。家に誰かが訪ねてくることもないですし。だから自分からなにかしようとしなない限りは、変化がないんですね。実家に帰った時には町内の掲示板とかも見ますけども、このような状態では、地域への参加の意識もあがらないのではないかなという気はしています。【円卓会議参加者】

#### 交わらない新しい住民と古からの住民

私は市政協力委員をしているんですが、私の住んでいるところは新興住宅地なので、新しい住民と古からの住民のコミュニケーションがなかなかとりにくいんです。市民しんぶんを配付していても、声を掛けても「ポストに入れといてください」という方が多いので人と人とのつながりをどうしたらいいのかなと思っています。【円卓会議参加者】

#### 自分の意見ばかり述べても...

委員一人ひとりが自己の意見を述べるばかりで、議論・討論になりにくい運営になりがちです。一方、審議会を取り仕切る座長は、極力全員の意見を引き出す努力をする余り、まとめてに苦労される結果となり、お気の毒に思います。【市民公募委員アンケートより】

## 私はこう思う！～議論の現場から～

接点が見当たらない・・・



志縁型の活動をしていて地縁組織と関わりたいと思っている団体は結構あると思います。ただ京都以外の出身の人もすごく多くて、地域に縁がない人が多いんです。初期の活動の段階では自分の団体の中で完結するような活動が中心ですが、事業を一步外に進めるときに様々な壁にぶち当たります。具体的にどこに相談して、どのように接点をもったらいいいのかということが分からないんです。【鈴木さん・第6回市民活動部会より】

### STEP 2

### 議論・分析



#### 志縁組織と地縁組織の“泣きどころ”

市民同士のコミュニケーションの重要性の話を受けて、再び「志縁組織と地縁組織」について考えたいと思います。

地縁活動の担い手と志縁活動の担い手が手を組まなくてもなんの問題もないのだったら、こんな余分な心配をする必要はありません。でも論点2で述べてきたように、両者は地域のなかでは同じ想いを持つ少数派の仲間です。しかも両者が手をつなげば、お互いの長所を活かし足りないところを補い合うことが可能になります。地域密着型の志縁活動は、子育てや環境などテーマが明確で、しかも自由な集まりだということで、関心のある人にとっては参加しやすく、また課題の解決にむけて大きな成果が期待できます。その反面、自由なぶん活動の継続性・継承性が弱いらいがあります(最初に始めた人はがんばるけど、中心メンバーが抜けたあと続かない、など)。それに、一般的に言えば経済的基盤が弱く(会費をとると参加者が減る)、また「少数の者の勝手な活動」とみなされやすいため、地域内の他の組織や行政の理解や協力が得にくいという弱点があります。

一方、地縁組織は、地域内でのネットワーク力と信用力があり、また行政との連携もとやすいという利点がありますが、肝心の組織の実態はといえば、(あくまでも一般論ですが)新しい世代が加入しないため町内会の組織率が低下し、中心となる担い手の固定化、高齢化が問題となっています。このままでは、地域課題に取り組むどころか地域住民の親睦という根本的な役割も担えなくなる可能性もありそうです。

## 私はこう考える！～議論の現場から～

地域の思いを引き継ぐ難しさ



活動のまとめ役が代わると、地域への思いとか、関わりとかを引き継ぎするのが難しいんだなということが分かりました。地域を良くしたいという思いは、一人ひとりいっぱいあるんですけど、地域との関わりの中で問題が出てきて、やる気が段々薄れていくというのが本当に残念です。【竹下さん・円卓会議より】

年功序列ではなく託せる人材を



若い人材を求めているのは、どこの地域、自治会、町内会も抱えている問題でしょう。しかし、地域活動の第一歩であるPTAで若い人材が活躍されても、今の地域活動を担っている人たちとは余りにも年齢のギャップがありすぎます。もっと垣根を低くし、参加しやすくするためには、年功序列ではなく、託せる人材を抜擢する勇気が必要ではないでしょうか。【西嶋さん】

お互いの弱点を補おう！

双方がうまく協力、協働することが出来れば、志縁組織は、信用力や地域内ネットワーク、行政との連携の可能性を広げることができますし、経済的基盤もある程度ですが安定させることが可能となります。地縁組織は、地域をよくしたいという想いと行動力とネットワークを備えた若い世代を取り込むことで、地域課題に積極的に取り組める力を持つことができます。日常的に地域活動が活発化するなかではじめて、より多くの地域住民が地域活動や地域組織に関わる状況が生まれてくるはずですよ。



✿ ちょっと聞いてよ！～フォーラムに届けられた市民の声～

地域の強み！行政との連携

地域の中で関わりを持っていないければ、行政のやっていることはわかりにくいと思います。やはり自治会などの地域活動に参加することである程度行政の取組は理解できると思います。壁を作ってしまうのではなく、誰か知っている人を通じてつながりを持つということも一つの方法だと思います。【梅津まちづくり委員会役員・円卓会議より】

地域のネットワークを有効活用して！

私の地域ではできるだけいろんな形で地域の方と接触していますし、NPOなどのいろんなグループが地域で活動していることについても意識を持ってやっています。（志縁組織が活動内容を）どこに広めていっていいのかわからないという話があるとのことですが、一番手っ取り早いのは自治会に入って欲しいなということです。自治会に入ってもらってコミュニケーションの幅を広げていただければいいのではないかと思います。そういう人は大歓迎です。【地縁組織役員・円卓会議より】



## 私はこう考える！～議論の現場から～

### 広報が仲間をつなぐキーワード



市民活動をしている私たちにとっては、広報、イベントをいかに地域の人に伝えるかということが非常に頭を悩ませる問題です。「地域の回覧板」は広報媒体の大きなツールの一つといえるのですが、私は回覧板を使わせてもらうことにすごく消耗しました。例えば「回覧板にはこういうものを載せますよ」という簡単なルールがあれば、活動する側にとっても分かりやすかったかなと思います。地縁組織と志縁組織が手を結べるのであれば、広報が一つ大きなキーワードかなと思います。【鈴木さん・円卓会議より】

### ミスマッチを無くしていくためにメディアを活用



私の実感として、まちの中には年齢層を問わずに、まちと関わり合いを持ちたい、何か行動を起こしたいと考えている人は沢山いると思います。しかし仲間が集まれるような場に恵まれなかったり、ポンと背中を押す人がいなかったりで、思いを持ったまま行動に踏み切っていない人がほとんどかもしれません。市内には様々な活動がありますが、排他性が強いと思われる、あるいは専門性が高かったりして参加しづらい雰囲気があるのかもしれない。このミスマッチを無くしていくためにも、様々なメディアを有効に活用することが必要なのではないでしょうか。【大島さん】



### 「べき」論でなく、損得で考えよう

担い手の人材についてみても、地縁組織は相対的に言えば以前からその地域に住んでいる人達が多いぶん、地域のことについて詳しく、かつ地域への深い愛着を持っている人が多く存在します。こうした力はこれからの地域活動にとって大切な資源です。一方、地縁組織を敬遠しがちな(なかなか受け入れてもらえない)新規来住者(マンション入居者や建売入居者)のなかには、子育てで知り合ったグループや、そろそろ定年を迎えるリタイヤ組など、「なにかに取り組みたい」「地域での人間関係を築きたい」という思いをもった人がたくさんいます。地域活動がこうした人達に居場所とやりがいを提供できれば、大きな力になるはずですよ。

先述したように、現時点では地縁活動の担い手と志縁活動の担い手の考え方や態度が微妙に違つとすれば、理念的に「双方が手をつなぐべきだ」と訴えるだけでは実効性はないかもしれません。しかし双方がともに、目先のことではない大きな意味での「損得」を考えるならば、考え方や態度の差を乗り越えてでも「手をつないだほうがお得」だということがわかるはずですよ。しかも、一般的には「地域密着型志縁活動」も「地縁組織」も「近所つながり」「学校つながり」を基盤にしているため、そのつながりをうまく使えば、双方はけっこうつながりやすいはずですよ。

## ✿ ちょっと聞いてよ！～フォーラムに届けられた市民の声～

上手に役割分担をしてみては？

「地域の中で自分の存在を認めてもらいたい」とか、「自分の居場所というものも持ちたい」といった思いは皆さん持っていると思うので、そのことを頭において、ちょっとずつその人にあった役割分担をやっていかないと、一人で活動していたら大変だと思います。【梅津まちづくり委員会役員・円卓会議より】

地域活動の「幸せな結末」

私は結婚してから今の地域に住んでいるんですが、10年以上地域の役を続けていても、「なんで地元の人ではない人が」と言われたりしました。嫌味を言われたときもありましたけども、とにかく気にしなかった。それを乗り越えたときに「みんなお友達」という感じで受け入れてもらえました。やっぱり色々な思いをしなければならぬこともあるだろうけども、今は本当に地域活動をさせていただいていて幸せだなと思うようになっています。【円卓会議参加者】

## ✿ わたしはこう思う！～議論の現場から～

参加するモチベーションとメリット



参加するのが「義務」になってしまうと、継続するのがしんどくなるように思います。まずは「まちを綺麗にしたい」「安心して住めるようにしたい」と自分の思いを共有する仲間を広げていくこと、そして活動することが「義務」ではなく「楽しい」「自分のためになる」というリターンが必要だと思います。それは自分で考えるものでもあるし、他人が背中を押す場合もあると思います。【大島さん】

町内会の活動が基本です



市民活動の母体は地域活動だと思います。まずは町内会を大切に考え、発展させていくことに貢献できたらと思います。また、フォーラムでの議論を通じて、自分には活動の場と時間があると気づき、今なら無知でも（壁を抱えたまま）でも入っていけると感じることができました。さまざまな活動を知り、興味を持つものを見つけたいと思っています。【藤澤さん】

活動を通じて感じる「小さなお得感」



以前住んでいた横浜では、外国人労働者の方が多く住んでいたもので、外国の方と通訳とをつなぐ役割を果たす、「語学ボランティア」の募集を地域で行っていました。日本語のプリントをローマ字に転記したりする取組をしながら、地域に入っていくお手伝いをするのですが、ボランティアをしているお母さんたちも、お礼に外国のお菓子を作ってもらったりしていて、とても楽しそうに活動をされていたのが印象に残っています。【竹下さん・第7回市民活動部会より】



## 地域活性化にお父さんのコミュニティづくり



地縁組織への40歳代から50歳代の男性の参加が少ないことが問題にされますが、現状の社会構成やお父さん族の役割から考えてもやむを得ない現象ではないでしょうか。むしろ、60～65歳で定年を迎え次の人生を模索しているお父さん族（おじいさん族？）を引っ張り出し、豊富な人生経験を生かす、あるいは生きがいを感じさせる仕組みづくりが必要であると思います。「定年になったから、あそこのお父さんに町内の世話を」の発想では、地域参加に慣れていないお父さん族は尻込みするだけ。地域参加の楽しみ、やりがいを感じさせる施策を行政が率先して行う必要があると思います。一例として「地域活性化策の募集・公募を行い、共通のアイデアに予算の裏付けをして、活動してもらおう」といったこともやってみては？

今まで一生懸命に税金を納めてくれたお父さんたちにわずかの予算かもしれませんが、施策に生かしてもらったら市政も活性化するでしょうね。【江田さん】

## ベクトルの方向を合わせよう



市民活動の促進のために、組織も求心力を強めていく必要があります。営利を目的としている企業と違って、NPOやボランティアの団体は、個人と組織のベクトルを合わせて同じ方向に向かっていくということが意外に難しいのです。「世の中のためにしている」という個人の満足感が自己満足に留まらず、組織の目的と合致して更に大きな力となっていくためには、企業以上に強いリーダーシップが必要となります。ミッションを明確にし、それをメンバーにわかりやすい言葉で伝えていくことで、一緒に活動をしていきたいという個人の意識を高めていく努力が、市民活動団体にも重要になっているでしょう。【大木さん】

## どうしたらつながれる？ 志縁活動と地縁活動

それでは、地縁型の人と志縁型の人理解しあい、ともに地域のことに取り組んでいくには、あるいは、一見地域の問題に無関心に見える多くの人たちが少しずつでもそのような活動に関わるようになるためには、どんな手立てが考えられるのでしょうか。

フォーラムでは今まで語ってきたことを振り返りながら、志縁・地縁の人達にちょっとずつ努力をして欲しいことと、そのための具体的な手立てや支援策について意見交換をしましたが、まずは、志縁活動に取り組んできた人や志はあるけれどこれまで市民活動（地域活動も含む）に関わってこなかった人と、地縁活動に取り組んできた人たちの双方が相手に対して抱いている紋切り型のイメージを変えて、地縁活動型の人と志縁活動型の人を手を携えられる可能性を知ってもらおう手立て、歩み寄るための心がけづくりが必要だという意見や提案が出されました。



## ✿ ちょっと聞いてよ！～フォーラムに届けられた市民の声～

## 地域の相関図が欲しい

既存の色々な地縁組織などの役員の方は、比較的市政の情報を知っておられるようですが、そうではないほとんどの市民は、どんな組織が何をして、どのようにネットワークされているのかわからないのでは。一度、市民の目から見た役立つ相関図を作成してはどうでしょうか。【市民公募委員アンケートより】

## ✿ 私はこう考える！～議論の現場から～

### 個々の発言がよいヒントに！



円卓会議では個々の発言にヒントが多く含まれていたと思います。もし今後、事例集やハンドブック的なものを作るのであれば、一般論的な結論ではなく、個々の発言を発信していく方がいいのではないのでしょうか。その方が実践的で臨場感のあるものになっていくと思います。【鈴木さん・第12回会議より】

### お互いの立場を具体的に知る



私が事務局で参加している「楽洛まちぶら会」は志縁組織的な要素と地縁組織的な要素が混ざっている組織で、同じ組織で活動をしていても価値観の対立というものが当然出てきます。それをクリアしていく方法は、「お互いの立場を知る」というところに尽きると思います。そういう意味では人と接して触れることも必要だし、事例集やノウハウ集を出すとか、色んな複合的なやり方で交流を促していくが必要なのではないかと思います。【大島さん・第12回会議より】



### お互いにわかる言葉で話すには？

志縁活動に取り組んできた人や志はあるけれどこれまで市民活動(地域活動も含む)にかかわってこなかった人と、地縁活動に取り組んできた人たちの双方が、相手に対して抱いている紋切り型のイメージを変え、歩み寄るためには、お互いに理解し合えるよう、わかりやすく話し合わなければいけないのですが、実はこれがなかなか難しい。求めていることはさほど違わないのに(例えば、地域の子ども達がイキイキと暮らせたらいいのに、など)お互いに相手の発言の背景にある事情を知らないために、往々にして誤解が生まれます。その誤解を解くためにもあいだをつなぐ第三者的なパイプ役(考え方の通訳)、コーディネーター(双方つなぐ仲人、相談役、アドバイザー)が求められています。

## ✿ ちょっと聞いてよ！～フォーラムに届けられた市民の声～

### 求む！地域の中のパイプ役

私自身の経験で思うのは、「地域に関わっていくのに、こんなにしんどい思いをしなければならないのかな」ということです。地域の皆さんが大きな目標としていることは共通しています。ただ共通しているんですけども思っていることがうまく表現できないために相互に認識しあえないところがあるんです。それをつないでくれるパイプ役みたいな人が、一人でも二人でも地域に定着していけばうまく融合していくのにとずっと感じています。【円卓会議参加者】

### 【参考】楽洛まちぶら会

2005年の9月18日から3日間、昨年に引き続き、三条通の烏丸から三条京阪まで、映像とあかりで通りを彩り、新しい夜の景観とまちなかの楽しみ方を提案する「三条あかり景色」が開催されました。この取組は、まちなかで事業活動やまちづくり活動を展開するメンバーで構成するネットワーク型組織の「楽洛まちぶら会」が主催した取組で、センターや京都の産業界等で構成する「どうする京都市民クラブ」が共催しました。

今年は昨年と比較して、映像の照射数は倍増、映像コンテンツは京都で学ぶ学生をはじめ、プロの映像クリエイターや学会など様々な作家の参画によりパワーアップを図り、3日間で15万人を超える人が新しい夜のまちなかの景観を楽しみました。

この取組の大きな特徴は、単なるあかりで彩るイベントではなく、三条通沿道の商店やマンションなど地元のみならずの理解と賛同の輪を広げながら展開する取組であり、三条通の「線としての一体感」の創出を試みる取組でもありました。このため、あかり景色の期間中には「まちぶらビンゴ」や「町ガチャ」「レインボーカクテル」などのショップをつなぎ、回遊する仕掛けも同時に開催されました。

この取組は今後も継続開催し、三条通の「線」から、より魅力的な都心界限となる「面」を目指して緩やかなネットワークを広げています。



会員数 約50名

HPアドレス <http://www.do-kyoto.jp/machi/index.htm>





### 行政だけではない、色々なタイプの相談相手

第三者的なコーディネーター役を期待できる存在として、行政があげられますが(このお話は論点5 P46で)、大学の先生、あるいはまちづくりコンサルタントかまちづくりNPOもその役割を担うことが可能でしょう。大切なことは、「この役割は区役所の 課だからできる」とか「大学の××学科の先生だから大丈夫」という質のものではなく、ある人の個人的資質と蓄積に支えられる部分が大いということ。ですから、行政職員の場合であれば、優れた資質を持つ人材をある程度長期当該部署に配属し経験を積ませていくことが必要かもしれません(もちろん、ノウハウを一般化し、後進に伝えていくことも大切です)。また、コンサルタントやNPOが上記のような役割を果たすためにはきちんと仕事になる仕組み(市か地域から業務として委託するような)が必要になります。

こうした役割を担える人や機関は行政以外でも多くあります。気軽に行きやすい敷居の低さが求められているので、いろいろな窓口をつくりましょう。地域活動や志縁活動でがんばっている方々のなかには、今回提起しているような課題をきちんと認識し、かつ実践の中で取り組んでおられる方が多くいます。大学の先生やコンサルタントも相談にのれますし、市民フォーラムのメンバーが(OB・OGを含めて)市民グループとして相談にのることも考えられます。

## ✻ 私はこう考える！～議論の現場から～

フォーラムでの感動を皆さんにも味わってほしい！



フォーラムに参加して様々な事例を学んでいくうち、また「やる気」が湧いてきました。西嶋さんの本能まちづくり委員会、円卓会議で出会った梅津まちづくり委員会に新しい地域のあり方を見て、誰でもできる範囲で参加できると思いました。また、フォーラムのメンバーが関わっている大文字保存会(長谷川さん)や楽洛まちづら会(大島さん)、プラスワンネットワーク(川名さん)など、一つひとつの取組が、人と人がつながって地域を元気にする原動力になっていることに気づきました。自分の地域を考える時、京都市の他の事例を学んで解決の糸口を見つけられるなら、フォーラムのような「まち」の悩みを相談できる場があったらいいと思います。【竹下さん】

青年会議所もリーダーシップを發揮します



京都青年会議所では行政と連携して行っている人づくり、まちづくりの事業もあります。しかし、やはり現場では我々がリーダーシップを發揮して進めていけないといけないと思っています。また、メンバーそれぞれが青年会議所活動以外で、地域でリーダーシップを發揮し、地域を引っ張っていけるメンバーづくりが益々必要であると考えています。そのような小さな単位での地域活動が市民参加のまちづくりにつながると思います。【松尾さん】

## ✻ 私はこう考える！～議論の現場から～

### 行動できるヒトがポイント



まちづくりを推進していくのは、何と云ってもその中核になるヒトです。地域の集団の中でリーダーシップを発揮するには、身のまわりにある問題を認識し、解決していく能力が不可欠です。異なる意見を集約し、集団をまとめていく、そして地域の中にあっても国際感覚を生かして行動できるヒトが必要なのです。将来にむけたリーダーを育てていく仕組みを作ること求められています。【大木さん】

### 熱い思いを持っている人がいれば・・・



私自身がいいなと思うことは、市内全域で行われている地蔵盆です。そういう取組も昔は地域のコミュニケーションの場になっていたんだろうと思います。しかし、町内のちょっと年配の世話役の方が一生懸命準備をされているが、中間層の年代の方や子どもを持つ親御さんは来られなくて、子どもとお世話役の方だけでやっているということになってきています。そのような取組を通じて、新しい住民と古くからの住民の出会いの場とか、世代間の出会いの場、活動の情報発信の場といったものを混ぜるような仕組みができれば、そういう熱い思いを持っている人が町内に一人でもいればいいのになと思います。【川名さん・円卓会議より】

### 社会とのつながりをサポートして欲しい



市民参加＝イベントやお祭りという認識で、“回覧板で回ってくる行事”と考えていました。どうかが「市民参加」につながるのかわかりませんでした。会社で仕事をするだけで「社会とのつながりだ」と固執せずに、「市民活動への参加」で社会性を持ち、自分の立場を持ち続けたいと思うようになりました。それが、市民である自覚と自信につながっていくと思います。「社会とのつながり」を持ちたいが、人脈がないことが壁となり、活動の場に参加するきっかけがない。そんな人たちがたくさんいます。その隠れたパワーを引き出すサポートが欲しいと思います。【藤澤さん・円卓会議より】

### 市政協力委員制度に期待すること



市政協力委員制度を更に充実していくことが市民参加を推進していく重要なポイントだと考えます。そのためには今の各学区市政協力委員連絡協議会が各町内市政協力委員との連携を更に密にしていくことが必要ではないでしょうか。町内市政協力委員は例外を別として毎年、改選をしていますから、学区の市政協力委員連絡協議会長がリーダーシップを発揮することが重要だと思います。各町内の要望や問題等々解決する行政の窓口など近道をアドバイスするなど、地域コーディネーターの役割を会長が担うことが市民参加を推進するために重要なポイントであると思います。行政も仕事をもつ現役世代が会議に出席できる時間帯を考え、地域が託せる人材が会長の重責を担うことが重要であり、次世代が積極的に参加をしても、挫折してしまうことのないような、市政協力委員連絡協議会の雰囲気づくりをすることが、誰でも参加できる市民の第一歩になると思います。【西嶋さん】

## 出前します！市民参加推進フォーラム



「傍聴に来てください」という姿勢ではなくて「出前トーク」のように、フォーラムを出前したらいいと思います。区役所の会議室や小学校の校舎などを借りて私たちが出向いて行って、フォーラムを実施し、その地域の人たちと意見交換を交わすことをしてみてもいいかもしれません。【長谷川さん・第10回会議より】

## 【参考】NPO法人大文字保存会

## 【活動主旨・目的】

京都の文化財産ともいえるべき「大文字送り火」の点火及びそれに附随する諸事業を行うことによって、京都を訪れるより多くの人々が、古来の伝統文化に親しむことができるよう、またこの文化を守り、次世代へ伝えていくことを目的に活動しています。

## 【具体的な活動内容】

「大文字送り火」を行うために必要な作業（伐採、薪割り、草刈、登山道の整備等）に40名近くのボランティアが参加し、作業を手伝っています。大文字山の共有林の所有者である47家を中心とする山麓の住民によって、40年以上も継承されてきた「大文字送り火」も、現在では市民参加によって、守られています。

## 【参考】NPO法人プラスワンネットワーク

## 【活動主旨・目的】

「アイデア、熱意、行動などの余力＝＋1の力」を源に、環境問題の改善、文化的創造、まちづくり、若手アーティストの支援などに取り組んでいます。行政や民間の企業とはまた違った視点でまちの活性化や、公益（社会一般の利益）の増進を目指し活動されています。

## 【主な活動内容】

## 市役所前フリーマーケットの開催

98年から京都市役所前広場という交通の便も良く、市民に親しみやすい広場にて毎月1回「市役所前フリーマ」と題した定期フリーマーケットを開催し、様々な世代に幅広く受け入れられるフリーマーケットを通じて、多くの市民が楽しく、かつやさしくリサイクル運動に参加できるきっかけづくりを提案し、京都のまちのごみ減量を目指しています。この「市役所前フリーマ」は時代の流れを反映してか、市民のニーズも高く、様々な方面においても多くの反響を呼び起こし、キリン京都ビアパークなどの他会場での開催もおこないました。またフリーマーケットの運営は学生のボランティアスタッフが中心となり、色々なアイデアを出し合い、より市民に親しんでもらえるフリーマーケットとなるよう取り組んでいます。

## 「鴨川さくらまつり」の開催

鴨川的环境美化促進、京都の観光誘致促進、ボランティア活動の促進、国際交流の促進を目的に、鴨川のさくら並木のライトアップ、「花灯路」を設置、「京都名店会」の開催等を行っています。

HPアドレス <http://www.plusone.ne.jp/>

## STEP 3

## 課題抽出

以上の議論から以下のような課題が抽出されました。

市民同士のコミュニケーションを図ることが必要

交流のキーワードとなる「損得」という考え方の重要性

誤解を解きほぐすコーディネーターの役割が必要